

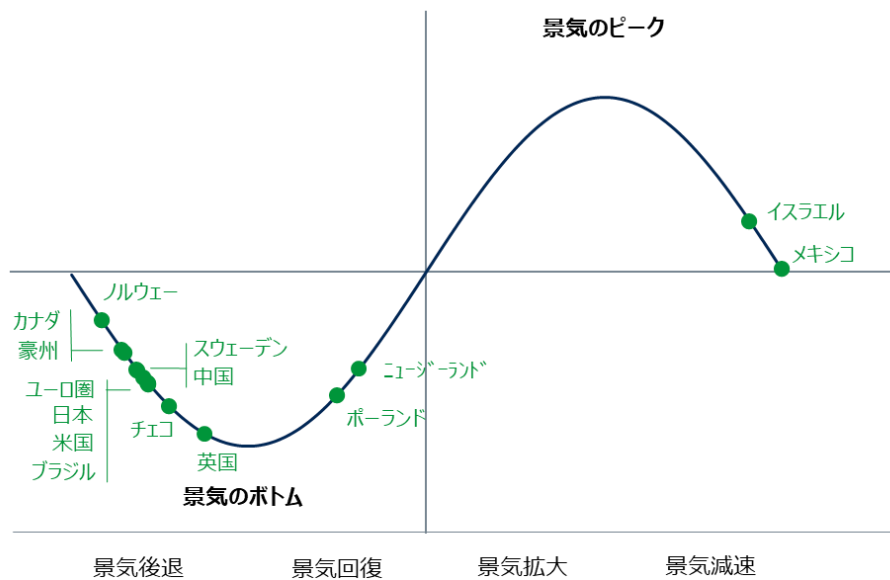
2023年2月10日

ベアリングス・ジャパン株式会社 運用本部 先進国ソブリン債券チーム

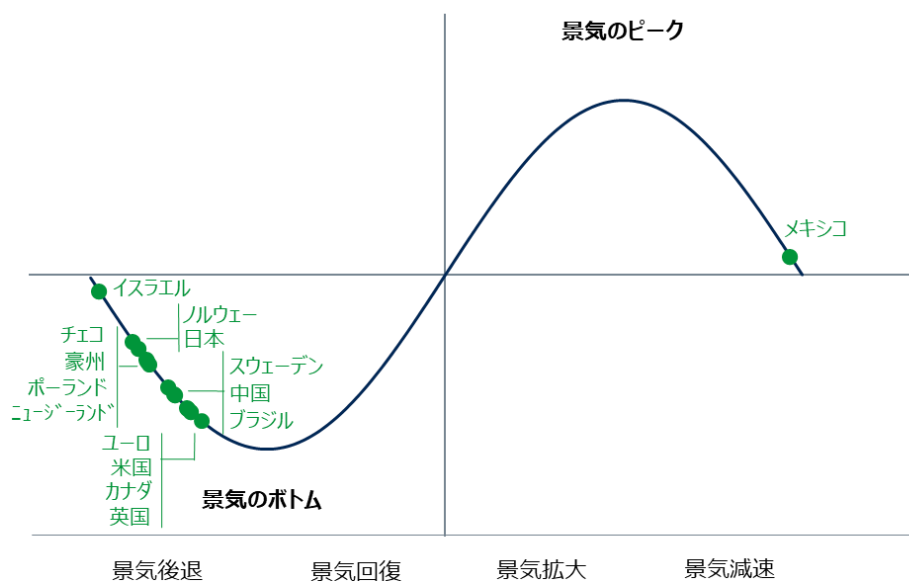
1. 2023年2月の状況と、2023年1月からの変化

今月も景気後退局面にある国が多い中、ニュージーランドとポーランドが景気回復局面へと移りました。両国は利上げを主要国より先んじて実施してきた国であり、景気サイクルの面でも先行している可能性があります。今後、両国のように景気回復局面へと進む国が現れるか注目されます。

2023年2月時点のベアリングス世界景気循環図



2023年1月時点のベアリングス世界景気循環図



上記は景気循環の状況をあくまで簡単な例として示すものであり、今後の各国の経済情勢を示唆または保証するものではありません。

出所：Markitの製造業PMI指数などを基にベアリングス・ジャパンが作成

2023年2月10日

ベアリングス・ジャパン株式会社 運用本部 先進国ソブリン債券チーム

2. 先進国ソブリン債券チームの今後の見通し

物価情勢については、供給制約の解消に伴い、財価格はデフレ化の動きが見られます。また、賃金上昇の伸び率も鈍化しており、今後サービス価格への波及が見込まれます。加えて、欧州の暖冬もエネルギー需要の減退を招き、物価への下押し要因として寄与すると予想されます。こうした中、主要国のほとんどが景気後退局面にあると見られることは、景気後退を緩やかにするための金融緩和が必要とも言え、債券投資にとって良好な環境であると考えられます。

実体経済については、これまでの利上げの影響が着実に反映されています。ベアリングス世界景気循環図からは、ほとんどの国で景気後退入りの蓋然性が高まったと判断されます。もっとも、中国の経済活動再開によって一部の国々では景気が下支えされる可能性がある点には留意が必要だと考えます。

先進各国においては、利上げ幅を縮小する国やカナダのように利上げ休止を示唆する国など、利上げ打ち止めが視野に入るところも見られます。政策金利の水準が制限的な領域に入る国では、物価上昇の鈍化が確認されることによって、更なる利上げ幅の縮小や利上げ休止の動きが進展すると予想されます。

利上げの休止が視野に入る国では、長期金利が低下基調を辿りつつあるなど、世界的な金利上昇の流れは転換した可能性があります。今後は利上げ休止が遅れがちな国の選別が、より高い収益を獲得する上で重要となりそうです。

(ご参考) ベアリングス世界景気循環図とは

各国の景気サイクル（景気後退、景気回復、景気拡大、景気減速）の位置を把握する目的で作成

- 定量的アプローチにより、各国の相対的な位置付けを1つの曲線上に表示
- 6ヶ月変化率から、各国の景気の拡大、縮小の方向性を判断
- 各国の過去最大10年間のデータに対する現在の水準を、景気のピークからボトムの間で表示

使用している主なデータは以下

- 経済協力開発機構（OECD）景気先行指数
- 製造業購買担当者景気指数（PMI）
- 各国向けの日本の工作機械受注
- その他（欧州経済研究センター（ZEW）景況感指数、オーストラリア・ニュージーランド銀行（ANZ）企業景況感指数、李克強指数など）

ベアリングス・ジャパン株式会社

当資料は、ベアリングス・ジャパン株式会社（以下、「当社」）が金融市場動向に関する情報提供を目的に作成した資料で、法令に基づく開示書類あるいは勧誘に関する資料ではありません。当資料は、当社が信頼できる情報源から得た情報等に基づき作成していますが、内容の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。当資料に掲載した運用状況に関するグラフ、数値その他の情報は過去の一時点のものであり、将来の運用成果等を予測あるいは保証するものではありません。なお、事前の承諾なく掲載した見解、予想、資料等を複製、転用等することはお断りします。

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第396号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

2732426